

1.活用方法

- 1.1 能力証明シートとは
- 1.2 能力証明シートの活用シーン
- 1.3 能力証明シートの活用メリット（学校での活用）
- 1.4 能力証明シートの活用メリット（企業での活用）
- 1.5 能力証明シートの活用メリット（中高年齢層向け活用）
- 1.6 能力証明シートの導入準備

1.1 能力証明シートとは |

能力証明シートを作成することで、自身が持つ実践的職業能力を明らかにすることができます。

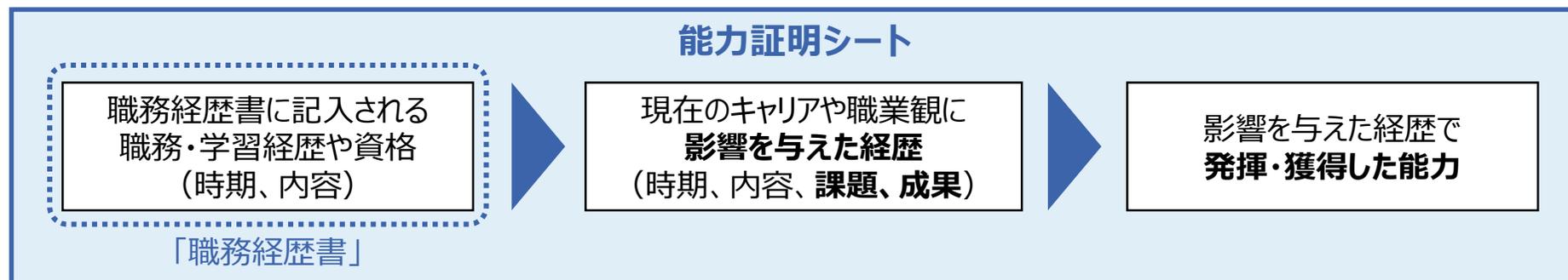
■ 実践的能力証明シートとは

- 実践的能力証明シート（能力証明シート）は、ジョブ・カード準拠様式の一つとして、自身がこれまでに身につけてきた資格だけではわからない専門知識や経験、スキルなどの実践的な職業能力を明らかにすることができるものです。
- 能力証明シートを作成して明らかになった能力は、本人の強みとして就職活動や社内の人事面接等でのアピールポイントになります。また、キャリアプランを考える上での軸になります。
- 能力証明シートは、ホワイトカラー分野、IT分野、医療介護分野の3分野について、「学生・社会人（エントリ）向け」と「社会人向け」に分かれています。

■ 実践的能力証明シートが必要とされる背景

- 学校や企業における就職やキャリア形成等に係る課題解決に向け、学生、求職者、従業員の「実践的な能力評価」と、その結果を反映した「各業界における、より効果的なマッチング」にも役立つツールが必要と考えられるため、ジョブ・カードの準拠様式として作成されました。

図表 能力証明シートと職務経歴書との違い



★ 自身の能力開発に関するこれまでの取組姿勢が分かる ★

- ✓ 能力証明シートを適切なタイミングで作成・更新することで、自らの経験・経歴とそこで発揮・獲得した能力が明らかになります。
- ✓ 今後のキャリアプランを考える際の材料にできます。

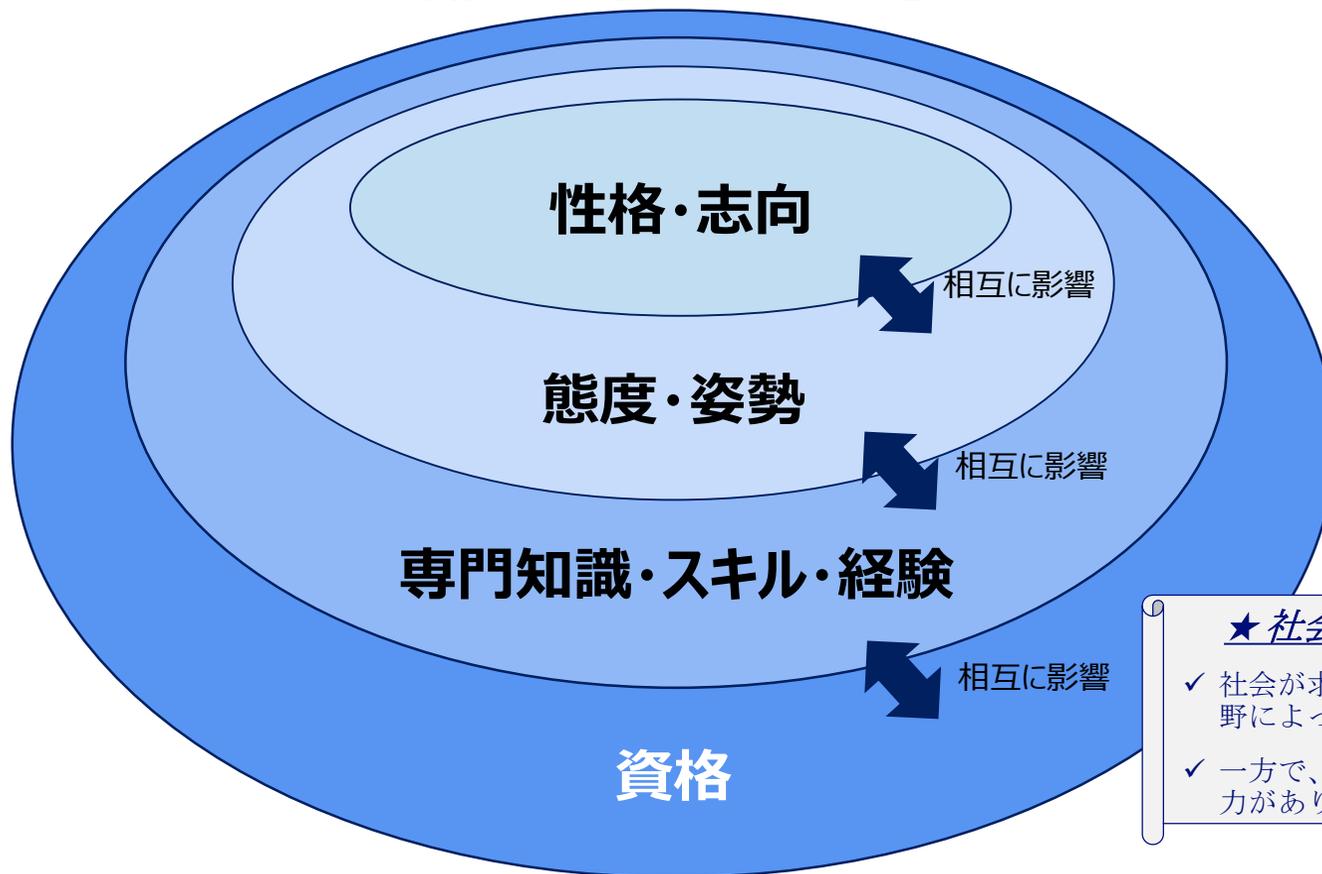
1.1 能力証明シートとは |

実践的な職業能力とは、資格だけでは表せない、経験、態度・姿勢等も含まれます。

■ 実践的な職業能力

- 資格を持たなくても専門知識・スキル・経験等を活かして行われている分野の職種や、資格が設置されていない分野の職種が数多くあります。また、資格を活かして仕事をする場合でも、経験や態度等が影響します。
- 能力証明シートの対象とする実践的な職業能力は、以下図表の全ての能力を対象とします。

図表 実践的な職業能力の構造

★ 社会が求める実践的な職業能力 ★

- ✓ 社会が求める専門知識やスキルは、その時代や分野によって異なります。
- ✓ 一方で、社会人として広く求められる汎用的な能力があります。

1.2 能力証明シートの活用シーン |

能力証明シートは学校、企業等での様々なキャリアシーンで活用できます。

- 能力証明シートは、キャリアにおける様々なシーンでの活用が考えられます。学校、企業等が抱える課題を解決するために、適切なシーンにおいて活用してください。

<u>活用シーン</u>	<u>活用目的</u>
シーン1 キャリア教育 就職支援	学校の指導者の方が、学生のキャリアに対する意識向上、能力、アピールの指導、助言を行うため
シーン2 採用面接 配属面接	企業の採用担当者や人事担当者の方が、学生や求職者、従業員の能力を把握するための一環として
シーン3 人材育成 セカンドキャリア支援	企業の人材育成担当者や人事担当者の方が、従業員の能力開発・活用の支援を行うため

1.3 能力証明シートの活用メリット（学校での活用） |

能力証明シートの活用により、学生に自信を持たせ自己効力感を高めることにつながります。

■ 学校が抱える課題解決に向けた活用

課題	目的	活用メリット
入学時の学生の学習に関するモチベーションを高める必要がある	学習に関する意識を向上させる	自身の能力や経験、将来のキャリアプランを考えることで、学習する意義を見つけるきっかけになる。
進路に対する違和感を抱える学生がいる、退学者を減らしたい	進路に対して悩みを抱える学生の支援	学習内容、学科・コース、進路に対して、入学前に考えていたことと比べて違和感、進路に対して悩みを抱える学生を支援することができる。
キャリア意識の低い学生がいる	キャリア意識の醸成	キャリア形成に関する重要性を伝えて、将来のキャリアに対する意識を高めるよう指導することができる。
自己効力感が低い学生がいる	自己効力感の引き上げ	学生に対して自分の能力を気づかせて自信を持たせることができる。
自分の強みや能力を上手くアピールできない学生がいる	アピール力の引き上げ	学生に対して自分の強みや能力を上手にアピールできるよう指導することができる。
キャリア教育の幅を広げる必要がある	キャリア教育ツールの充実	能力証明シートを学生がキャリアプランニングや能力証明を考える際の教育ツールとして活用することができる。

1.4 能力証明シートの活用メリット（企業での活用） |

能力証明シートの活用により、定着率の向上などの課題解決につながります。

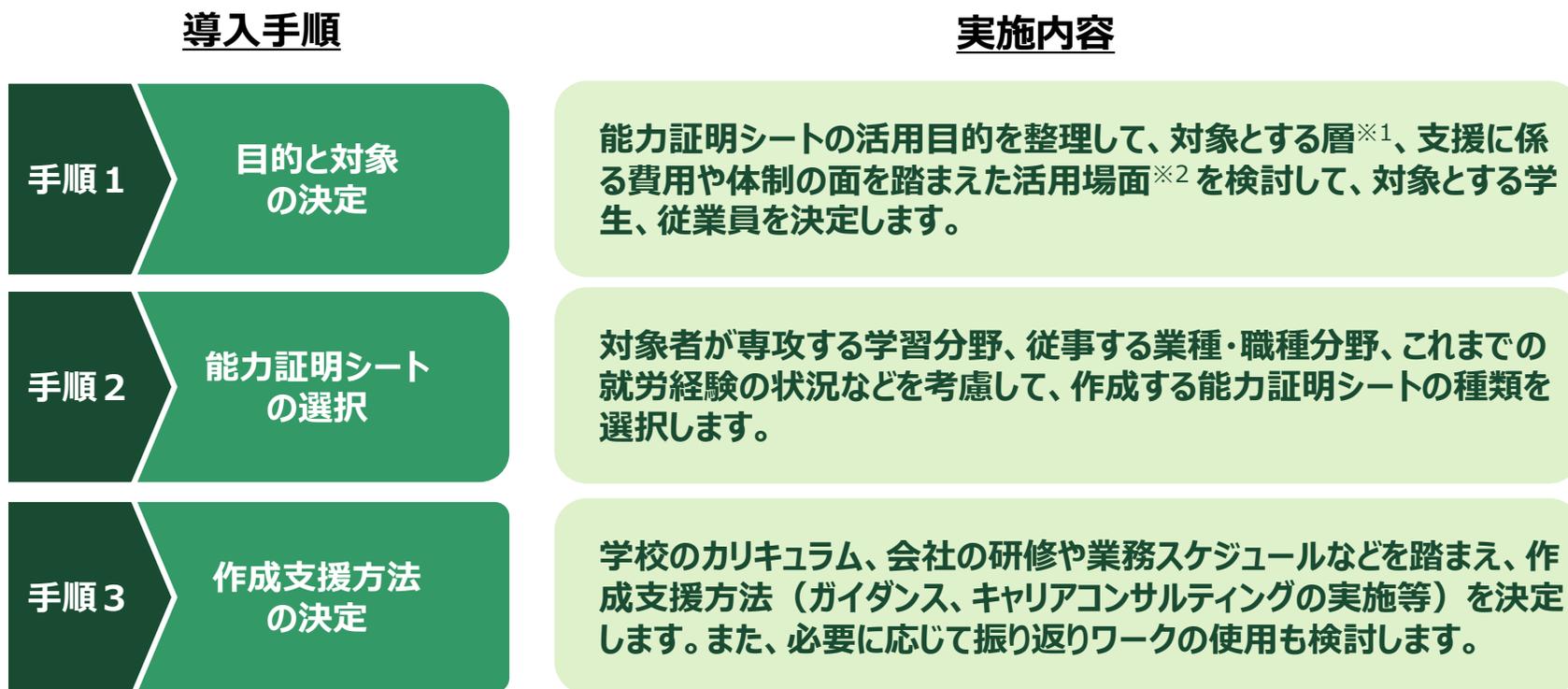
■ 企業が抱える課題解決に向けた活用

課題	目的	活用メリット
入社したての従業員に働くことに対するモチベーションを高める必要がある	働くことに対して前向きに取り組むようになってもらう	将来のキャリアプランを考えることで、働く意義を見つけ、意欲を高めるきっかけになる。
職業に対する違和感を抱える従業員がいる、離職者を減らしたい	キャリアに対して悩みを抱える従業員の支援	職業に対して、自分の能力をあまり活かせていないと思い、違和感を感じていたり、キャリアに対して悩みを抱える従業員を支援し、定着率を高めることにつながる。
キャリア意識が低い従業員がいる	キャリア意識の醸成	キャリア形成に関する重要性を伝えて、将来のキャリアに対する意識を高めるよう指導することができる。
強みや能力のアピールを上手くできない従業員がいる	アピール力の引き上げ	強みや能力を上手にアピールできるよう指導することができる。
キャリア研修、面談の幅を拡げる必要がある	キャリア研修、面談ツールの充実	能力証明シートを従業員のキャリアプランニングや能力証明を考える際の研修、面談ツールとして活用することができる。
高齢期のキャリア形成	充実感・やる気の確認	従業員に自分の能力を見つけて自信を持たせることができる。充実感、やる気、意識を高く持って仕事をすることができる。

1.6 能力証明シートの導入準備 |

学校・企業等の状況に合わせて、事前に、対象者、シートの種類、支援方法を決めます。

- 就職活動支援や人材育成等に係る課題解決のため、能力証明シートを活用することを決定した後に、以下の手順で導入の準備をします。



※1 例えば、2年制の専門学校なら翌年度に就職活動を控えた1年生、企業なら複数の職場経験を積むための異動先を検討する入社3年目の従業員など

※2 例えば、授業や既存の研修に組み込む、外部のサービスを利用など

1.6 能力証明シートの導入準備 | 手順1 目的と対象の決定

能力証明シートは学校、企業等において、対象者に応じて、様々な目的で活用できます。

■ 目的と対象

学校	学生	<p>キャリア授業</p> <ul style="list-style-type: none"> 学習経歴や職業体験を棚卸し、将来に向けて身に付けたい能力を考えるツールとして活用 <p>就職活動</p> <ul style="list-style-type: none"> 強みとなる職業能力を明らかにし、アピールするツールとして活用 	指導者	<p>キャリア教育</p> <ul style="list-style-type: none"> 学生が将来に向けて身に付けたい職業能力と一緒に考えるツールとして活用 <p>就職支援</p> <ul style="list-style-type: none"> 書類作成や面接に向け自らの能力の適切な記載・アピールを支援するツールとして活用
	企業	社会人	<p>応募書類作成</p> <ul style="list-style-type: none"> 強みや職業能力を経歴に紐付けて、アピールするツールとして活用 <p>配属面接</p> <ul style="list-style-type: none"> 職業能力の棚卸し、活用したい能力をアピールするツールとして活用 <p>能力開発</p> <ul style="list-style-type: none"> 職業能力の棚卸し、強み、弱み、伸ばすべき能力を把握するツールとして活用 <p>セカンドキャリア</p> <ul style="list-style-type: none"> 強みとなる職業能力を明らかにし、アピールするツールとして活用 	人事担当者

■ 指導シーンの想定

能力証明シートの活用に際して、指導者から作成者へ、以下のような呼びかけを行うことを想定しています。

学校の授業で先生が学生に向けて
「あなたの強みとなる職業能力や将来身に付けたい能力を明らかにしましょう。」

企業の研修で人事担当者が従業員に向けて
「あなたの強みや職業能力を職務や学習の経歴をもとに明らかにしましょう。」

キャリアコンサルタントが相談者に向けて
「あなたの強みや職業能力を職務の経歴をもとに明らかにしてアピールしましょう。」

1.6 能力証明シートの導入準備 | 手順2 能力証明シートの選択

職業能力をアピールする先の分野の能力証明シートを活用します。

■ 能力証明シートの種類

- IT、医療介護、ホワイトカラーの3分野の業種・職種 of シートがあります。

■ 能力証明シート（業種・職種）の選択

- 職業能力をアピールする先の分野の能力証明シートを活用して下さい。
例：IT業種の専門的な職業能力をアピールする場合、IT分野の能力証明シートを活用
- 業種に関わらずホワイトカラー職種の分野の職業能力をアピールする場合、ホワイトカラー分野の能力証明シートを活用して下さい。
例：IT業種で仕事をしていてもホワイトカラー職種の分野の職業能力をアピールする場合、ホワイトカラー分野の能力証明シートを活用

	IT	医療介護	左記以外のその他業種
業種専門の職種	IT分野のシート	医療介護分野のシート	
ホワイトカラー職種	ホワイトカラー分野のシート	ホワイトカラー分野のシート	ホワイトカラー分野のシート

1.6 能力証明シートの導入準備 | 手順2 能力証明シートの選択

学生・社会人（エントリー）とそれ以外の社会人で区別して、能力証明シートを選択します。

■ 能力証明シートの種類

- IT、医療介護、ホワイトカラーの3分野の業種・職種について、それぞれ「学生・社会人（エントリー）※1向けシート」、「社会人向けシート」の2つの種類の能力証明シートがあります。

■ 能力証明シート（学生・社会人（エントリー）向け、社会人向け）の選択

対象者	能力証明シート	主な活用シーン	備考
学生	学生・社会人（エントリー）向けシート 〈本マニュアル p.15～26〉	キャリア教育、就職活動支援	就労経験をアピールする場合は、「社会人向けシート」を選択
社会人（エントリー）		新入社員研修	
上記以外の社会人	社会人向けシート 〈本マニュアル p.27～38〉	人材育成、セカンドキャリア支援	

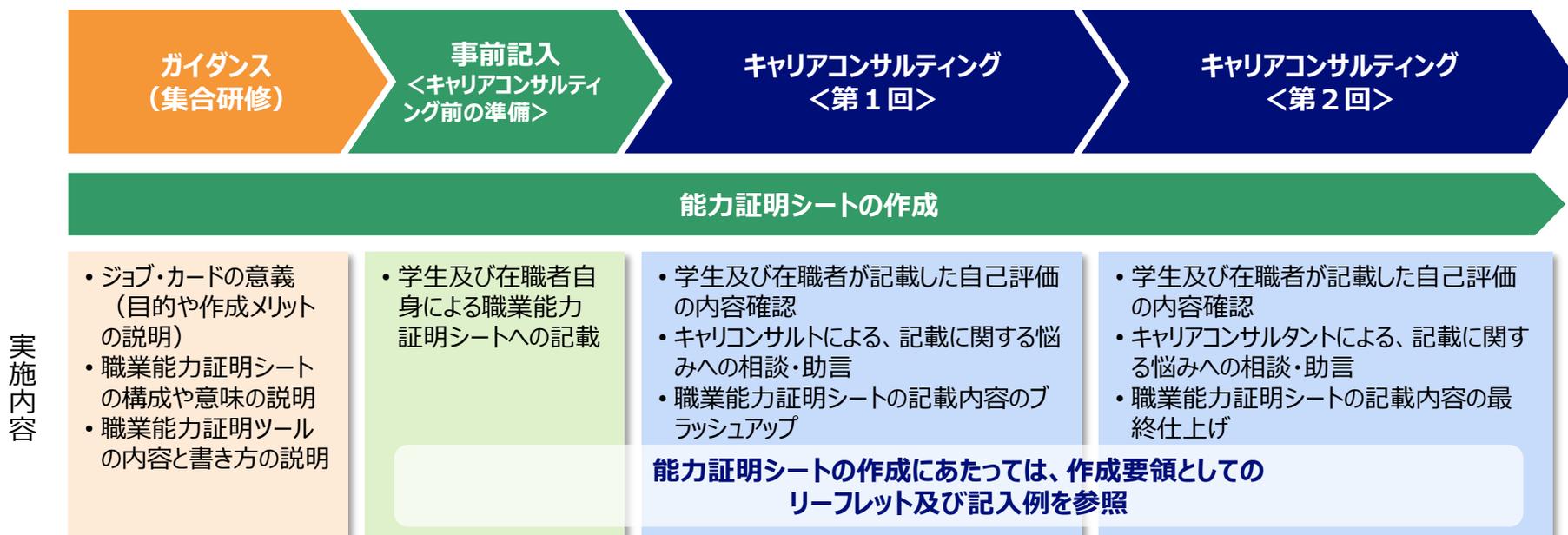
※1 社会人（エントリー）とは、学校卒業後の新入社員の他、学校卒業後の就労経験が2、3年の未満の方を想定。

1.6 能力証明シートの導入準備 | 手順3 作成支援方法の決定

能力証明シートの作成支援方法は、支援に係る時間、予算、場所等を踏まえ決定します。

■ 能力証明シートの作成支援（キャリアコンサルティングを実施する場合）

- 学生や在職者に対する能力証明シートの作成支援として、キャリアコンサルタントによる集合ガイダンスと、シート作成後、もう一度見つめ直し考えを深めることができるよう、キャリアコンサルティング（個人面談）を実施します。2回実施することでより効果的な活用が期待できますが、1回のみでも可能です。
- キャリアコンサルティングの回数や一連の支援期間は、活用の目的や対象者の状況に応じて柔軟に判断できます。ただし、一連の支援は、作成者が思考した記憶が鮮明なうちに行われるよう、あまり長い期間をかけず一ヶ月程度で実施することが目安となります。
 - 例えば、社会人が、内容を冷静に見つめ直すためには、1回目と2回目のキャリアコンサルティングを2、3週間程度の間を取って実施することが考えられます。一方、学生が、就職活動に向けて内容を深めるためには、1回目と2回目のキャリアコンサルティングを1、2週間程度の間を取って実施することが考えられます。



1.6 能力証明シートの導入準備 | 手順3 作成支援方法の決定

キャリアコンサルティングを実施せずに、ガイダンスのみを実施することも可能です。

■ 能力証明シートの作成支援（ガイダンスのみ実施する場合）

- 作成支援は、ガイダンスとキャリアコンサルティングとのセットがより効果的ですが、学校の教育カリキュラムや企業の業務状況を踏まえ、ガイダンスのみを実施することも可能です。ただし、その場合、能力証明シートの記入後のフォローアップとして、「指導者による作成者への助言」を行うことにより効果的な活用が期待できます。
- フォローアップ時に、指導者による作成者への助言を行う場合、可能な限り、本資料を参考に、作成者へ助言する時間を設けて下さい。



能力証明シートの作成

実施内容

- ジョブ・カードの意義（目的や作成メリットの説明）
- 職業能力証明シートの構成や意味の説明
- 職業能力証明ツールの内容と書き方の説明

- 学生及び在職者自身による職業能力証明ツールへの記載）

- 学生及び在職者が記載した自己評価の内容確認
- 指導者による、記載に関する悩みへの相談・助言
- 職業能力証明ツールの記載内容のブラッシュアップ

能力証明シートの作成にあたっては、作成要領としてのリーフレット及び記入例を参照